



菅野大志の

「いどばた会議」vol.32

まちづくりに関する活動や近況などを
西川町長・菅野大志が綴ります。

3月3日、令和7年度に向けた施政方針を表明しました。概要はこちら！ぜひご覧下さい。

1. 冒頭、除雪に関する皆さまへお礼を申し上げます！

「隠れ積雪日本一」と評されるわが町。大変厳しい自然環境の中でも、私たちが安心して住むことができるのは、建設業者はじめ除雪に関わる全ての皆さま方が、深夜に起床され、不規則な生活を強いられながらも除雪いただいているからです。また森林組合や民間会社、地域の方々には、高齢者宅の除雪を担っていただき、心から敬意を表します。

さらには、町民の皆さま、毎日のような除雪作業お疲れ様でございました。大雪の影響から除雪等でお怪我をされた方、心からお見舞いを申し上げます。

それでは、来年度の施政方針を述べさせていただきます。

2. 私の心構え

人口減少が続く中、西川町は、ここ10年が勝負どころです。私は、この町の岐路にあたる重要な時に、町民の皆さまより付託いただきました。

3月3日は国家公務員を辞した日です。3年前の今日は吹雪でした。猛烈な吹雪の中、私は、古澤町議や菅野町議と町の1軒1軒を回ってご挨拶をしていました。特に、古澤町議は、「俺は、この若者にかけているんだ。彼なら大丈夫だ。頼む」と、ご自身の信頼を、地盤・看板・カバンもない私に分けてくれました。この古澤町議のようなお世話になった方々、期待している方々に応えていかなければならない。これが私の原動力の1つです。

もう1つの原動力は、幼い頃に感じた劣等感に対する反発です。私は、小学生のころ、野球のスポ少「西川ライオンズ」に入団していました。人数の多い相手チームは、人数の少ない、わがチームとの対戦を喜びました。中学でも陸上競技のリレー等団体競技で、大きな中学校に勝てず、笑われるような悔しい経験をいたしました。なぜ、生まれた町、入学した学校によって、こんな思いをしなくてはいけないのかと、幼い頃に思いました。西川町出身の方々、同じような経験はなかったのでしょうか。私は、今の西川の子どもたちに、このような悔しさを経験させたくありません。そうならないように、私たちは頑張らなくてはなりません。

今申し上げた2点をエネルギーの源泉として、来年度も現場を大事に、職員と一体感をもって、町民の皆さまから信頼をいただけるよう取り組んでまいります。

3. 令和7年度における4つの基本方針

わが町の最大の課題は、急激な「人口減少」です。地域では、春にはお祭り、夏には盆踊り、秋には区民の運動会、冬には灯籠づくりなど、四季を通じて恒例行事がありました。私は、人は少なくなくても、笑顔の絶えない町を取り戻したい。

来年度、町政の基本的な考え方は、次の4つであります。

- (1) 寛容な町をさらに進展させたい
- (2) DX活用により効率的な役場をつくり、対話の時間を作りたい
- (3) 「町の動きが活発だ」と思われるようになりたい
- (4) 町民の皆さまを巻き込んだ取組への挑戦を継続させたい



▲内藤副町長とともに、国での経験を活かして西川が残り続けられるよう頑張ります！

今月の大ニュース！

『3年連続過去最高！

当初予算案90億円で人口減少の波を迎え撃ちます！』



▲町公式LINE



▲オープンチャット

ご登録お願いします！

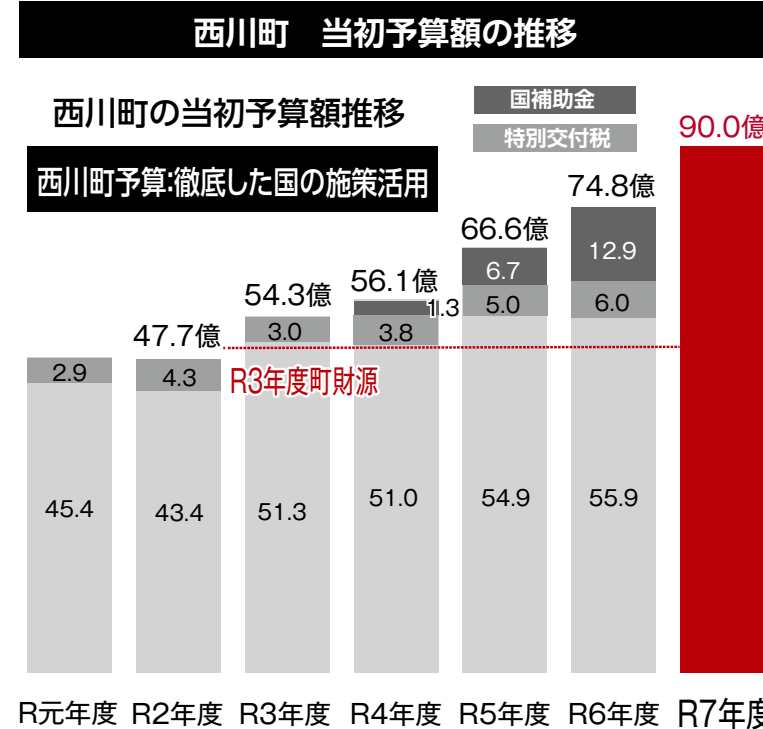
4. 来年度の予算規模は2割増の90億円に上ります

令和7年度の一般会計当初予算額は、前年比+20.4%増（15億2,200万円）の大幅増加で町政史上初の90億円です。3年連続で過去最大。

予算額が大幅に増加した一方で、地方債（借金）の発行額を半額以下に抑え、貯金の取崩を大きく増加させずに予算を編成することができました。これを可能にしたのは、国から得られる国庫支出金や特別交付税、外部資金である、ふるさと納税の大幅増によります。

特に、国の新しい地方経済・生活環境創生交付金は、短期間の申請期間でありながら、3年間で総額50億円の事業費（令和7年度分申請は、14億円）を申請できたのは、職員がいつも町民の皆さまと対話し、課題を詳細に把握し、つなぐ課が連携すべき民間企業とマッチングできたことが大きな要因です。さらに、補助金獲得に向けて副町長やかせぐ課、総務課、観光課などで特別にチームを編成するなど、柔軟に対応してくれた職員の不断の努力の賜物です。

主な事業：問沢地区流雪溝整備、海味温泉耐震工事、コーポ睦合外壁工事・内装工事
中学校雨漏り改修・空調整備工事、町営住宅新規整備設計、道の駅広場整備、災害対策環境整備事業、川西・大石田広域観光事業



5. 最後に

総合政策審議会委員からご評価いただいたように、社会減ゼロを実現した奇跡は、町職員、第三セクター職員も、町民も、西川ファン、連携企業さまのおかげです。悪口を言い合ったり、足を引っ張ったりするのではなく、ともに助け合い、苦しんでいる人、そういう人たちを助け合う、楽しい・寛容な西川町にしたいと思っています。

楽しい・寛容な西川町となれば、令和12年度には自ずと人口の社会増に転じ、やがては生産年齢の人口増、そして人口増に転じるようになるでしょう。

しかしながら、近年、町で誕生する赤ちゃんは、毎年10名前後。人口の社会増となるまでは、人口減少の大きな波が押し寄せています。

私は、この町の船頭として、気候変動、デジタルの進展などの急激な社会の変化の中でも、国の政策の風を読み、前例がないことでも果敢にチャレンジし、チャンスをつかんでいきます。

町は、人口減少の大きな波に対し、100億円以上の予算で迎え撃ち、「この町に住んでよかった」と思われる町を、子どもたちが胸を張って「西川町出身!」と言えるような町を、全身全霊で必ず作ってまいります。ともに頑張りましょう🔥